

## 福井県における RS ウイルスとヒトメタニューモウイルスの検出状況

福井県衛生環境研究センター 中村雅子

2005 年 8 月から 2007 年 12 月までの福井県における RS ウイルス（以下、RSV）とヒトメタニューモウイルス（以下、hMPV）の検出状況について報告する。

検体は県内の小児科 2 箇所および高齢者施設 1 施設において上気道炎、下気道炎などの呼吸器系症状を呈した患者（インフルエンザを除く）から採取された鼻咽頭ぬぐい液 320 検体。MinElute Virus Spin Kit（QIAGEN）で RNA を抽出し、RT-PCR 法により RSV と hMPV を検出した。RSV は主に G 領域<sup>\*1</sup>（2006 年 10 月までの検体は F 領域）に、hMPV は F 領域<sup>\*2</sup>に設定されたプライマーを用いた。

その結果、RSV が 65 検体、hMPV が 27 検体検出された。RSV は 11 月から翌年 1 月にかけての冬期間に検出数が多く、サブグループをみると A 型と B 型のどちらかが検出された時期と混合して検出された時期があった。hMPV の検出は 3 月から 6 月に多かったが、季節的な変動は少なかった。

2007 年 11 月下旬から 12 月中旬にかけて、県内の 1 保育所（園児数 214 名、年齢 0 ～6 歳）において RSV 感染症の流行があった。保護者へのアンケート調査により、RSV 感染症が疑われたのは 43 名であり、発症率は 1 歳児クラスが 80.0%(24/30)と最も高かった。症状は咳・鼻炎・発熱・気管支炎等であり、鼻炎・咳が初期症状であった。最高発熱は平均 38.9 度、38.0 度以上の有熱期間は平均 2.2 日であった。園児から家族に感染したと回答したのは 21 名(48.8%)で、このうち 11 名(25.6%)は両親等の成人に感染した。医療機関で採取した園児 8 検体の鼻汁を検査し、全検体から RSV が検出された。サブグループは A 型が 3 検体、B 型が 2 検体であり、残る 3 検体からは A 型と B 型の両方が検出された。

\*1)Mizuho Sato et al. : J Clin Microbiol.,43,36-40(2005)

\*2)高尾真一他：感染症学会誌,78,129-137(2004)